

令和3（2021）年度 部局マネジメント方針

交通戦略室長

ふじの かつひこ
藤 埜 克彦



私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取り組み方針）

本市は、鉄道が6路線26駅、路線バスが17路線運行されており、これらを利用すると大阪市内はもとより、京都・神戸・奈良などの関西主要都市へ1時間以内でアクセスでき、大阪の玄関口で国土軸の主要施設でもある新大阪駅、大阪港、関西国際空港、大阪国際空港に、様々な公共交通機関で直結しています。

一方、道路交通に目を移しますと、東西南北に阪神高速道路、近畿自動車道の高速道路が整備されているだけでなく、大阪の主要幹線道路であります、中央環状線・外環状線の2環状軸と国道308号（中央大通）線が存しており、自動車での近畿各地への移動も非常に便利です。

このように本市の交通環境は都市の魅力を構成する重要なピースではありますが、一方で生駒山麓部に広がる急傾斜地における市民の公共交通機関へのアクセスや、東西に偏った鉄道交通といった都市構造に起因する課題と、人口減少、少子高齢化に伴う公共交通機関の利用者の減少・公共交通サービスの低下、高齢化による移動困難者の増加など社会構造に起因する課題が存在しています。これらの課題により発生する交通環境の悪化は、市民の安心安全な生活環境を悪化させるだけでなく、都市の魅力の低下、都市の衰退につながる恐れがあります。

交通戦略室では、SDGs 目標である「住み続けられるまちづくりを」の達成に向け、本市の交通の現状と課題を整理し、「鉄道駅を中心とした誰もが利用しやすい交通環境づくり」を基本方針に、既存の公共交通機関を活用した取り組みなど地域の特性に応じた様々な施策を実施することで、誰もが利用しやすい交通環境づくりを進めるとともに、大阪モノレール南伸事業等の交通インフラの整備を進め、交通利便性をさらに高めることで、都市魅力の向上、さらなる発展をめざしてまいります。